SAAJ本部 主要部会・研究会・支部 ご案内資料

SAAJ活動説明会2026
2026年10月3日（土）開催
にての説明資料

認定NPO法人日本システム監査人協会

1．基準改訂委員会（主査：松枝憲司）　（1/2）

基準改訂委員会の目的

①経済産業省が公表している「システム監査基準・管理基準」とその実施方法や着眼点を記載したシステム監査・管理基準ガイドライン等を策定・更新して公表する。
②本ガイドラインの広報と普及活用を図ることでシステム監査人及び本協会の認知度の向上等を図る。

1．活動の概要、体制等

1．システム監査・管理ガイドラインの策定と公表及び普及活動
2．事業体制
　① テーマ別ガイドラインの作成
　・ 日本システム監査人協会
　・ システム監査学会他
　② 研修セミナーの開催等

基準改訂委員会（2026年度の活動メンバー）

主査：松枝
メンバー：SAAJ3名。テーマ別ガイドライン策定に向けて募集（ITアセスメント研と連携）

基準改訂委員会　活動実績（2026年9月現在）

■システム監査・管理基準ガイドライン（案）のパブコメ募集（2023/5）
■システム監査・管理基準ガイドラインVer1を日本システム監査人協会HPより公表（23/8）
■テーマ別ガイドライン公表開始（25/1）公表済み5本＆原案検討中
■リスクアプローチに関するガイドライン、Devopsの管理／アジャイル開発の管理／Dxに関するガイドライン、ITガバナンスとITマネジメントの情報連携

お問い合わせ　https://www.saaj.or.jp/toiawase/saaj_toiawase.html

【参考】基準・ガイドラインの所管、メンテナンス主体　（2/2）

- システム監査基準及び管理基準本体は経産省が管理更新を担当する。
- システム監査基準ガイドライン及び管理基準ガイドラインは、連絡会参加団体にて協力して管理更新する。代表団体は日本システム監査人協会（SAAJ）が務める。

経済産業省

システム監査基準

原則（What）、趣旨、解釈指針、等

R5年度版システム監査基準

システム管理基準

原則、目的、フレームワーク等

R5年度版システム管理基準

実施方法（How）、実施・書式等

管理項目の例、趣旨、着眼点等

民間団体

SAAJのHPで2023/8/10日公表

システム監査基準ガイドライン

システム管理基準ガイドライン

2025年以降対応中

テーマ別ガイドライン

研究成果報告書（未）

※ガイドラインセミナー動画も公開中

2．CSA利用推進グループ（主査：斉藤茂雄）

（1/2）

CSA利用推進Gの目的

① 協会の認定資格であるCSA/ASAの社会的な認知度を高めるための諸活動を推進
② 上記のために、CSA/ASAの力量向上に資する活動を推進
③ CSA/ASAのコミュニケーションの活性化を支援

活動の概要、会議頻度等

●CSAフォーラムの開催
（講師を招き、勉強会形式の研修会をオンラインで開催、対面の時は懇親会も実施、
3～4ヶ月に1回の開催目標、1回2H）
●CSA利用推進に関する広報（DM等）
●メンバー会議（不定期）
●CSA交流会（過去１回開催）
●その他

CSA利用推進Gのメンバー

主査：斉藤茂雄（副会長）
メンバー：億谷和彦（理事）、田村修（理事）、浜崎元伸（理事）、三浦大和（理事）、
森岡俊也（理事）、大西智（オブザーバー）

CSA利用推進G　活動実績

●CSAフォーラムの開催：2008年9月より通算45回開催
※CSAフォーラムはCSA/ASAの皆様が、 システム監査に関する実務や事例研究、理論研究等を通して、システム監査業務に役に立つ研究を行う場です。CSA/ASA同士のフェイスtoフェイスの交流を図ることにより、相互啓発や情報交換を行い、CSA/ASAのスキルを高め、よってCSA/ASAのステータス向上を図ります。
●主要自治体向け「入札条件に関するお願い」ＤＭ発送（2023年12実施）
●システム監査技術者試験会場での、入会案内、小冊子配布（2025年10月実施）

2．CSA利用推進グループ（主査：斉藤茂雄）　（2/2）

課題等

- 官公庁、地方自治体等の一部にCSAが認知されつつあり、CIO補佐官の登用等がありますが、一層の推進が必要です。
- 試験制度変更を受けたCSA/ASAの価値の発信と認知度向上が必要です。
- CSAフォーラムの発表者を募集中です。1～1.5Ｈ発表いただいて、参加者で内容について意見交換します。テーマは特別設けていません。活動時間はCSA/ASAの継続教育時間として充当可能です。

公認システム監査人（CSA）、システム監査人補（ASA）の募集について

- 2027年春期の募集期間は、**2027年2月1日～3月31日**　となります。
- 資格取得をお考えの方是非この機会にチャレンジをお願い致します。
- 同僚や部下にまだCSA/ASAを取得していない方がおいでなら、是非勧奨お願いします。
- ご不明の点は協会HPの問い合わせ画面（下のURL）からお問い合わせください。

CSA/ASAの認定カード（有償）について

- 協会ではCSA/ASAの希望者の方に認定カードを発行しております。
- 以下のURLを参照ください。

https://www.saaj.or.jp/csa/pdf/nintei_card_shinsei.pdf

お問い合わせ　https://www.saaj.or.jp/toiawase/saaj_toiawase.html

お問い合わせ　https://www.saaj.or.jp/toiawase/saaj_toiawase.html

CSA のロゴ　ASA のロゴ



認定カードサンプル

3. 月例セミナー運営委員会（主査：戸室佳代子、副主査：豊田諭、億谷和彦）（1/１）

月例セミナー運営委員会の目的

① システム監査に役立つ幅広く専門的な知見を提供することを目的に、月例でセミナーを運営しています（2月と8月を除く）。
② 月例セミナーを通じてSAAJを知り、入会のきっかけとしていただくために、会員だけでなく一般のご参加も受け付けています。

月例セミナー参加のメリット

- システム監査に関する重要テーマや動向を知ることができ、システム監査に必要な幅広い専門分野について有識者から知見を得られます。質問もできます。
- リモート開催なのでどこからでも参加できます。当日参加出来ない場合は、オンデマンドで試聴できます。

月例セミナー開催実績　（開催形態：年10回　2時間/回　リモート開催）

- 第302回 国際規格に基づくAIプロジェクトのガバナンス、マネジメント及びオーバーサイト
- 第303回 システム管理基準追補版の改訂ポイント
- 第304回 防災行政の再編とDX：防災庁設置構想から見える理想と現実
- 第305回 サイバー空間の脅威の情勢とJC3の主な活動
- 第306回 情報セキュリティ監査制度の改訂にみる今後のシステム監査のあり方
- 第307回 なぜAI導入の半数は失敗するのか：DX基盤から考える成功の条件
- 第308回 JUAS「企業IT動向調査2026」調査概要について
- 第309回 JPXにおけるAI推進：活用事例・推進体制・統制の考え方
- 第310回 テーマ１）JISQ38500:2026及びJISQ38503:2026の紹介とISO規格の動向
  テーマ２）JISQ38500:2026とシステム管理基準ガイドラインについて
- 第311回 コーポレートガバナンスが問われた企業不祥事例から学ぶ課題と提言

４．会報部会　（主査：竹原豊和、副主査：豊田諭）

会報部会の目的

① 会報が、会員やシステム監査人のコミュニケーションの場、また、情報交換の場となるように。
② システム監査に関する啓発・広報活動の一翼を担うため。

活動の概要

- 毎月25日に発行し、協会のホームページに掲載する。
- SAAJの会員及び研究会、部会、各支部から投稿記事を募集する。
- 投稿記事には、匿名と記名投稿がある。
- 会報の年間テーマを決めている。
  【2026年：AI時代に求められるシステム監査】

会報部会メンバ（直近１年間の活動メンバー）

主査：竹原豊和、副主査：豊田諭
編集支援：松枝憲司(会長）、各副会長、各支部長
メンバー：坂本誠、鈴木雅之、田口喜久、田村修、辻本要子、野嶽俊一、浜崎元伸、山口達也

会報部会　活動実績

- 会報1号は、1988年2月に発行されました。(当時は隔月発行、紙媒体、会員に郵送)
- 会報108号（2009年6月号）から電子版となり、郵送は廃止になりました。
- 2017年10月には、会報全号がバックナンバーとして閲覧できるようになりました。
- 会報は、毎月メンバー持ち回りで編集しています。
- 発行後、国立国会図書館に納本されています。
- 毎年総会で、投稿された記事から優秀記事を表彰しています。(通称:会報アワード)

４．会報部会（主査：竹原豊和、副主査：豊田諭）

会報記事募集内容

会報への投稿は、システム監査にとどまらず、情報社会の健全な発展を応援できるような内容であれば歓迎します。

- 巻頭言(SAAJ会長、副会長から投稿)
- 投稿記事「めだか」：エッセイ、思い
- 実名投稿：研究成果、エッセイ、思い
- 部会、研究会からの活動報告
- 書評、意見箱、投稿への質問
- 注目情報、協会からのお知らせ等

会報投稿のメリット

- SAAJ会員であれば、どなたでも投稿可能です。
- システム監査人としての思いが投稿できます。
- 会報を通して、自分の考えを、多くの人に知ってもらうことができます。
- 投稿された記事が、国会図書館に納本されます。

会報部会　その他

- 会報の編集に興味がある方、会報部会への入会を歓迎します。
- 会報部会に入会されても投稿が可能です。
- 2017年11月号(200号)に「会報に見る30 年の歩み 」が掲載されています。

連絡先

会報部会　主査　竹原豊和　宛　　mailto:saajeditor@saaj.jp

5．法人部会　（主査：山口達也）　（1/2）

法人部会の目的

システム内部監査・外部監査を「業務として実施」している企業担当者や、個人事業者が、業務としてのシステム監査に関する情報交換・協力等を通して、わが国におけるシステム監査の普及・啓発を図ること、そして、そのことを通して業務としてのシステム監査活動の発展に寄与することを目的としています。

活動の概要、会議頻度等

- 法人組織等で実施されるシステム内部監査業務や、外部監査人としての監査業務等、業務としてシステム監査を実施する上でのテクニックや最新動向を含む各種情報交換を主な目的として活動しています。
- 原則奇数月第2火曜日に定例会を開催しています。

法人部会メンバー（直近１年間の活動メンバー）

主査：山口達也
メンバー（敬称略）：小野修一、斉藤茂雄、齊木孔二、真鍋直緒、松井秀雄、
浦上豊蔵、鈴木章彦、鈴木正幸、佐藤雅英　他

法人部会　活動実績

- ■ 法人部会活動内容見直しの実施
- ■ オンラインミーティングを利用した定例部会運営の実施
- ■ システム監査普及にかかわる活動計画
- ■ 協会会報における法人会員紹介記事の掲載（適宜）
- ■ 協会新システム移行を見据えた活動運用方法の見直し（継続）

5．法人部会　（主査：山口達也）　（2/2）

課題、募集内容、人数等

- 企業に属されている個人会員の方は、システム監査人協会の活動のメリットについて、是非とも、自社企業でアピールして頂き、法人会員としてご参加をご検討下さい。
- 起業されている個人会員の方も、法人会員のメリットや、システム監査の普及、啓発のため、是非、法人会員としてのご登録をご検討下さい。

法人部会参加のメリット

- 企業の規模によりますが、最大１０名の方が、個人会員と同じ条件で、協会活動に参加できます。
- 法人会員の社員職員は、SAAJ月例セミナーに何人でも会員料金で参加できます。
- 現在検討・準備中の情報セキュリティセミナーの講師として活躍できる機会ができる予定です。地方自治体とのコネクション醸成に役立てて頂けます。

その他

- 現在定例部会の運用方法を大きく見直し、より多くの方との意見交換ができるような運用を検討しております。昨年から検討を継続しておりますが、今般の協会システム更新の状況を見つつ、新しいシステムにおける運用方法を継続して検討予定です。
- システム監査を巡る環境変化がより急速に進展する状況においては、システム監査を実施する者同士の情報交換の意義も更に増していると考えます。昨今では何かと話題の多い生成AIを監査業務でどのように活用できるのかというテーマを中心に意見交換を実施しています。

お問い合わせ　https://www.saaj.or.jp/toiawase/saaj_toiawase.html

６．システム監査事例研究会　（主査：野田正勝）　（1/2)

システム監査事例研究会の目的

システム監査の普及を目的とした監査普及サービスおよび各種セミナーを実施し、システム監査スキルの向上を図ります。

活動の進め方

- ✓ システム監査普及サービス･･･引合いの都度（最近では2020年度、21年度、22年度、25年度に実施）
- ✓ システム監査実務セミナー･･･年２回
- ✓ システム監査実践セミナー･･･休止中
- ✓ 事例に学ぶ課題解決セミナー･･･年２回
- ✓ 普及サービスの実例、事例に学ぶ課題解決セミナーの実例にもとづく実務・実践セミナーの新教材の作成および講師の育成･･･通年
- ✓ 定例会･･･毎月第一水曜日

活動実績

- ● システム監査普及サービス約３０例
- ● システム監査実務セミナー４７回
- ● システム監査実践セミナー３６回
- ● 事例に学ぶ課題解決セミナー２３回

６．システム監査事例研究会　（主査：野田正勝）　(2/2)

入会について

システム監査事例研究会は、協会の中でも、最も身近で実践的な活動を行っている研究会です。参加者の主体的な活動ができ、やる気次第で活動の幅は広がっていきます。

- 普段、システム監査に係わる機会のない方には、普及サービスの実施、セミナー教材の作成などの作業を通して、機会に触れることが出来ます。
- セミナーの講師を行うことで、様々な受講者と交流を深めることが出来ます。
- システム監査スキルの向上を目指した研究・学習活動が出来ます。定例会ではご自身で興味あるテーマを設定して発表・討論を行うことが出来ます。
- 定例会開催後、懇親会を行い、交流を深めています（現在は休止中）。様々な情報交換の場となっています。

研究会メンバー（直近１年間の活動メンバー）

主査：野田正勝
メンバー：10名

お問い合わせ　https://www.saaj.or.jp/toiawase/saaj_toiawase.html

7．情報セキュリティ監査研究会（主査：舘岡均）　(1/2)

情報セキュリティ監査研究会の目的

デジタル社会の発展、DXの推進、ならびにクラウド、IoT、テレワーク、生成AIの活用など、デジタル化および適用分野は急速に拡大している。すなわち、システム監査の対応すべき領域、業種、技術が進展しており、監査のリスクと対策の再認識や、ルールの見直しが求められています。また、従来からセキュリティ事故やサイバー攻撃が後を絶たず続いており、大規模な被害が発生しています。このような状況下で、当研究会ではITおよび応用分野、セキュリティ等に係る現状と動向について、範囲を広げて調査して俯瞰的に把握し、課題等の整理、個別テーマ研究を行い、AI活用も実施して進めます。これらを通じてシステム監査／情報セキュリティ監査に役立てることを目的として活動を進めています。

活動の進め方

- 各メンバーがITおよび応用分野、セキュリティ等について、各業界、諸団体、専門分野等のそれぞれにおいてトピックスを見つけ、あるいは現状と動向を調査して俯瞰的に把握して、システム監査／情報セキュリティ監査に役立てる。
- さらに現在あるいは今後着目する調査／研究内容、などを持ち寄って、課題等を整理する。
- これらを基に、各メンバーの得意分野あるいは興味を持つテーマをコアにして、「個別の研究テーマ」を適宜に定めて研究活動を進める。
- これらの活動ではAI活用も実施して進める。さらには、必要に応じて、テーマに詳しい知験者（他団体、SAAJ会員など）に参加頂いて活動レベルの向上を図る。

＜定例会＞

原則月1回（第4木曜日）19:15~20:45、協会事務所およびWeb会議を併用。

7．情報セキュリティ監査研究会（主査：舘岡均）　(2/2)

活動実績（テーマ）

- ✓ 2016年、2017年…「経済産業省・情報セキュリティ管理基準およびFISC安全対策基準の活用」、「大規模個人情報流出事案の原因究明」、「世界的な規模で発生のランサムウェア」etc
- ✓ 2018年…**「情報セキュリティサービス基準」、「FISC安全対策基準（第９版）」**、etc.
- ✓ 2019年…「 情報システム監査実践マニュアル（赤本）第３版・情報セキュリティ部分」etc.
- ✓ 2020年…**「政府情報システムのためのセキュリティ評価制度（ISMAP）」**etc.
- ✓ 2021年～2026年…「サイバーセキュリティ施策実績／計画」、「セキュリティ関連白書」、「学校におけるセキュリティ教育」、「セキュリティ施策動向（各省庁、NIST、等）」「ランサムウェア」、「AIの動向把握および活用」、「重要インフラセキュリティ」、「IT統制」etc.

研究会メンバ（直近１年間の活動メンバー）主査

主査：舘岡均。副主査／理事：森岡俊也（運営補佐）、浅野（中部）（運営補佐）、斉藤茂雄、豊田、竹原、大西、荒町、細川、三浦、鈴木、小林（北海道）。　メンバー：田口、川辺、相原、野澤、水木、他

参加について

- ●メリットとしては、広い分野の知見が得られ、自身の研究成果の発表、広報、等の機会が出来る。
- ●**次のような活動に賛同される方の参加を歓迎します。**
  - ✓ **各メンバーがビジネスマナーを遵守し、お互いの考え方を尊重することをベースとしてコミュニケーションを図り、全員参加型の活動を目指す。**
  - ✓ 研究テーマの対象範囲が広いので、前述の＜活動の進め方＞のように研究活動を進めて行く。
  - ✓ 参加メンバーは、ITおよびセキュリティ等のトピックス、現状と動向調査、自身の研究内容などについて、研究会にて話題を提供する（月1回）。

お問い合わせ　https://www.saaj.or.jp/toiawase/saaj_toiawase.html

8．ITアセスメント研究会（主査：松尾正行）　（1/2)

活動概要

ITサービスの提供者と利用者双方における適切な管理を維持・向上させる活動を、ITアセスメントととらえて、システム管理基準ガイドラインの活用に関する研究を行います。
具体的には以下のテーマに取り組みます。

(1) ITガバナンスに関連する事項

a) JIS Q 38500：2026(組織のITガバナンス）の活用と普及
b) JIS Q 38503：2026(ITガバナンスのアセスメント）の活用と普及
c) ISO/IEC 38501 Part-1,2及びJIS Q 38501-1（ITガバナンスの実装）の改定プロジェクトに国内委員会SC40WG1及びJIS原案作成委員会から参画

(2) システム監査・管理基準ガイドラインの活用法、テーマ別ガイドラインの研究等

システム管理基準ガイドラインを現場でより活用できるよう補足・改訂等を研究する
本基準や赤本*の活用に興味がある方歓迎です。

(3) システム監査・管理基準ガイドライン運営委員会への参画

システム監査関係団体及び経産省による本委員会および個別WGに参画しシステム監査・管理基準ガイドラインの開発に貢献している。

(4)生成AIの活用

システム監査・管理基準ガイドライン、DX、デジタルガバナンス情報分析などの研究
(1)、(2)、(3)は統合的に進めます。英語の得意な方はより歓迎。できなくても歓迎です。

進め方

研究会開催日時

1回/月の定例会を開催（Google meet)

8．ITアセスメント研究会（主査：松尾正行）　(2/2)

活動実績

- 過去システム監査基準研究会として、「情報システム監査実践マニュアル（赤本）第2版」「IT統制監査実践マニュアル（黄本）」の発刊や「システム管理基準forオフショアVer1」の発表等、システム管理基準の活用に関する研究を中心に行ってきた。
- 2020年6月に赤本*（3版）を出版した。
  https://www.saaj.or.jp/shuppan/130903Akahon3Chirashi202104.pdf
- R5年度の経済産業省の「システム監査基準とシステム管理基準の改訂委員会」に参画し、両基準（4月）及び両基準ガイドライン（8月）の発行に貢献した。
  https://www.meti.go.jp/policy/netsecurity/sys-kansa/
  https://gl.systemkansa.org/



- ISO/IEC 38503（ITガバナンスのアセスメント）の開発を支援した（2022/1発行）
- JIS Q 38500:2026（組織のITガバナンス）の開発に参画した（2026年2月発行）
- JIS Q 38503:2026（ITガバナンスのアセスメント）の開発に参画した（2026年2月発行）
- ISO/IEC 38501-1,2（ITガバナンスの実装）の改定プロジェクトに参画した
- JIS Q 38501-1（ITガバナンスの実装）の開発に参画中（2027年発行予定）

研究会参加のメリット

- ✓ ITガバナンスの基準に関する具体的な活用方法やITガバナンスをアセスメントする具体的な方法についての知見を獲得できる。
- ✓ ITアセッサとして、自身のビジネスの拡大に繋がる可能性がある。
- ✓ システム監査人として新たな活躍の場をメンバーとともに探っていけます。

お問い合わせ　https://www.saaj.or.jp/toiawase/saaj_toiawase.html

９．個人情報保護監査研究会　（主査：永井孝一）　（1/2）

研究会運営について

個人情報保護監査研究会は、個人情報保護マネジメントシステム（以下PMSという）について、JIS規格、及び法令遵守等の観点から研究調査活動を行っています。プライバシーマーク（以下Ｐマークという）付与適格性審査や、事業者におけるPMSの悩み等から、課題を発見して、原因を追究し、対策を検討していきます。各メンバーが興味のある研究テーマを選び、定例会だけでなく、最新情報の共有や意見交換を行っています。
また、社会貢献の観点から、監査サービス、研修等PMS普及に取り組んでいます。

定例研究会：毎月第３火曜日18:30～20:00（リモート開催）

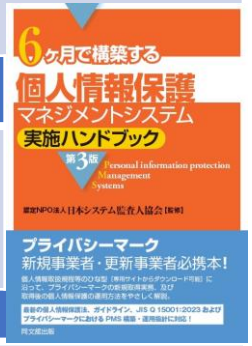
主な活動実績：

- 2014年12月　「PMS実施ハンドブック」(オレンジ本)出版。
- 2015年9月　番号利用法改正を反映。
- 2016年5月　保護法改定を反映。
- 2019年7月20日　「PMS実施ハンドブック」(第2版)出版
- 2020年6月12日　保護法2020改正(2022/4/1施行)を反映
- 2021年5月19日　保護法2021改正(2023/4/1施行)を反映
- 2022年4月1日　プライバシーマークにおけるPMS構築・運用指針を反映
- 2024年5月11日　「PMS実施ハンドブック」(第3版)出版
- 2024年7月11日　「PMS実施ハンドブック」(第3版)電子書籍販売開始









研究会メンバ（直近１年間の活動メンバー）

主査：永井孝一（理事）、副主査：坂本誠（理事）
メンバー：岡田和也、川辺喜悦、小林久芳、五味巻二、斎藤由紀子、成田佳應、
仁井谷智也子、吉谷尚雄（近畿）

お問い合わせ　https://www.saaj.or.jp/toiawase/saaj_toiawase.html

９．個人情報保護監査研究会（主査：永井孝一）　(2/2)

活動概要

個人情報保護監査研究会は、PMSについて、以下のような研究成果を活用した情報サービス等も行っています。

（１）個人情報保護監査サービス

これからＰマークを取得される事業者、および更新審査を控えている事業者を対象に、経験豊富なシステム監査人が、第三者として客観的な観点から「個人情報保護監査サービス」を提供します。詳細はこちら　https://www.saaj.or.jp/shibu/Kojin/kojinservice.html

（２）「6ヶ月で構築するPMS」セミナーの開催

「6ヶ月で構築するPMS実施ハンドブック」第3版(R版)を用いて、セミナーを開催します。

- ●基本コース：月1回　14時～17時（3時間）×６ヶ月
- ●料金：100,000円(+税)/1名～（１社３名以上割引あり）
- ●会場：日本システム監査人協会本部会議室（茅場町）/もしくは、Zoomリモート接続
- ●テキスト（別売）：「6ヶ月で構築するPMS実施ハンドブック」(第3版) ¥3,850円
  書店、もしくは「書籍注文書.PDF」をダウンロードし、FAX/Mailでお申込みください。
  https://www.saaj.or.jp/shibu/Kojin/130706HBV3Tokubetsu.pdf

（３）システム監査人の推薦

PMS構築やPMS監査に関する支援や相談を希望される事業者には、システム監査人推薦制度に基づき、講師やコンサルタントを推薦します。詳細及び申込み方法は、こちら↓
https://www.saaj.or.jp/csa/recommend.html

個人情報保護マネジメントシステム構築・運用に関するQ&A集

- ◆質問は、お問い合わせへ　https://www.saaj.or.jp/toiawase/saaj_toiawase.html
- ◆回答は、個人情報保護監査研究会メンバーが行います。
- ◆回答のもたらす結果について当協会及び回答者は責任を負わないものとします。
- ◆質問者の個人情報は回答に必要な範囲のみで使用します。質問及び回答については、内容を一般化してQA集に掲載することがあります。
  QA集：https://www.saaj.jp/04Kaiin/PMSHandBookQA.html

10. プロジェクト監査研究会 [PJA研]

（主査　：細川 健一）
（副主査：戸室 佳代子）

活動の目的

「監査など役に立たない」と言われることがあります。その理由は、プロジェクトの終盤での監査では改善や挽回が難しいことや、指摘される問題の多くが関係者にとって「すでに分かっていること」になっていることなど、です。

そこで当研究会は、「役に立たない監査」でなく「**プロジェクトを成功させる監査**」を12年間研究してきました。その成果として、2冊出版しています。

「発注者のプロジェクトマネジメントと監査」 **(青本)** 2018年出版
「失敗しないシステム開発のためのプロジェクト監査」 **(緑本)** 2020年出版
（緑本付録 ： プロジェクト監査項目表（Excel）ダウンロード提供）



出版した後も、さまざまな事例研究を通じて「プロジェクトを成功させる要点」や「プロジェクトが失敗する根本原因」などについて議論しています。

また、緑本の付録**“プロジェクトを成功させる監査項目表”**は、3年かけて抜本的に見直し、アジャイル編も追加して全面改訂版[*1]を読者に配布しています。

*1 大項目：39、中項目：241、詳細項目：1216、解説/事例：280件

活動の概要

■**PJA研（プロジェクト監査研究会）** 隔月の金曜日（19:00～リモート会議）
メンバーのひとりが発表し、メンバーで討論します。テーマは、成功・失敗事例、セキュリティなどの技術動向、システム開発・運用・教育など。講演者が自由に定めます。

■**DX分科会** 隔月の水曜日（19:00～リモート会議）
日本のDXの方向性や活動の進捗、効果の上がるDX推進方法、成功するDXプロジェクト構築などを考察します。

10. プロジェクト監査研究会 [PJA研] つづき

（主査　：細川 健一）
（副主査：戸室 佳代子）

活動状況（2026年）

■PJA研（プロジェクト監査研究会）

回次	日付	議題テーマ
第52回	1月23日(金)	2026年度の活動計画に関する意識合わせ
第53回	3月13日(金)	自動車業界におけるシステム監査の動向
第54回	5月22日(金)	DX分科会のこれまでの歩みと現状
第55回	7月31日(金)	生成AIを活用したシステム開発における品質保証のポイント
第56回	9月11日(金)	生成AIを組み込んだシステム利用時のポイント
第57回	11月13日(金)	『監査項目表』の改定要否に関する議論

■DX分科会
年間6回のディスカッション

メンバー構成

15名で活動中（2026/8末時点）
[本部] 10名、 [北海道支部] 1名、[中部支部] 1名、[北信越支部] 1名、[近畿支部] 2名
＜参加メンバー募集中＞　連絡先 **saajprojaud1092@saaj.jp**

■プロジェクト監査本　2割引き購入チラシ
https://www.saaj.or.jp/shibu/Projectkansa/130804PJAChirashi.pdf

11. BCP研究会　（主査：荒町弘）　（1/2)

BCP研究会の目的

組織におけるBCPに役立つ情報発信を行う
IT-BCPに関する監査基準・ポイントを整理する

活動の進め方

- ✓ 定例活動…毎月第2水曜日を基本とした月例会議の開催（オンライン）
- ✓ IT-BCPセミナーの企画・実施…年1回以上
- ✓ セミナー教材の整備（2026年:失敗原因マンダラ図を用いたワークショップ教材）

これまでの研究テーマ

- ✓ 中小企業のIT-BCP／IT-BCP監査の着眼点検討（中小企業庁／総務省資料等を参照）
- ✓ ICT部門におけるBCPへの取り組みと課題**（協会報　No.203（2018 年２月号））**
- ✓ レジリエンス認証とシステム監査**（情報ｼｽﾃﾑ監査実践ﾏﾆｭｱﾙ第3版に掲載）**
- ✓ テレワーク環境におけるIT-BCP　**（協会報　No.245（2021 年 8 月号））**
- ✓ IT-BCP版「失敗原因マンダラ図」の作成・ワークショップセミナーでの活用

2026年活動

2月～10月: 第1回～第4回定例会議（ワークショップセミナー企画・教材検討）
6月　　：勉強会開催（伊藤氏を講師とする「医療機関のBCP」に関する講演）
8月　　：勉強会開催（宮崎氏を講師とする「電力業界のBCP」に関する講演）
11月28日：IT-BCP版失敗原因マンダラ図活用ワークショップセミナー 開催

11. BCP研究会　（主査：荒町弘）　(2/2)

活動の経歴について（イベント開催及び執筆等）

2010年　BCP研究会活動開始（同年A社との共同取組み開始）※SAAJ近畿支部
2014年　IT-BCP体験セミナー開催／西日本支部合同研究会にて活動報告
2015年　IT-BCP体験セミナー開催
2016年　IT-BCP体験セミナー開催(大阪市ICT戦略室向け)
2018年　協会報2月号記事掲載【ICT部門におけるBCPへの取り組みと課題】
2019年　レジリエンス認証制度とシステム監査について研究
2020年　情報システム監査実践マニュアル第3版（グループで執筆）
　　（第3部　第10章 レジリエンス認証制度とシステム監査）



2021年　協会報8月号記事掲載【ﾃﾚﾜｰｸ環境におけるBCPの考え方】
2022年　ﾃﾚﾜｰｸ環境とIT-BCPの研究～BCAO ITｻｲﾊﾞｰﾀｽｸﾌｫｰｽとの連携開始
2023年　IT-BCP体験セミナー開催（2月25日、10月28日）
【2024年より活動を本部に移す】
2024年7月　第289回月例研究会　BCP研究会設立記念講演（講師：大塚純一氏）
2024年9月　第1回IT-BCPセミナー（事例考察）開催　（9月13日）
2025年11月　第2回IT-BCPセミナー（ワークショップセミナー）（11月15日開催）
2026年11月　第3回IT-BCPセミナー（ワークショップセミナー）（11月28日開催）

研究会メンバー（直近１年間の活動メンバー）

主査：荒町弘　　メンバー：12名　計13名（関東地区7名、関西地区7名）

お問い合わせ　https://www.saaj.or.jp/toiawase/saaj_toiawase.html

12. 推薦委員会（委員長：松尾正行） (1/2)

活動概要

１）目的

社会的なシステム監査に対する認知度を高め、システム監査に対する社会のニーズを掘り起こし、適切に応え、協会の使命であるシステム監査の普及・啓発を促進し、もって正会員団体および正会員個人がシステム監査および関連する業務に係わる機会を拡大する。

（１）１号推薦

システム監査および関連する業務を遂行できる人材に関し、外部から協会に対して推薦依頼があった場合、協会として、依頼の趣旨に相応しい会員を候補者として推薦する

（２）２号推薦

外部からシステム監査および関連する業務を受託しようとする正会員団体および正会員個人から協会に対して推薦依頼があった場合、協会として、依頼会員を受託業務に相応しい会員として推薦する

２）推薦制度運営委員会（推薦委員会）

(1)推薦台帳への登録申請の受付および審査

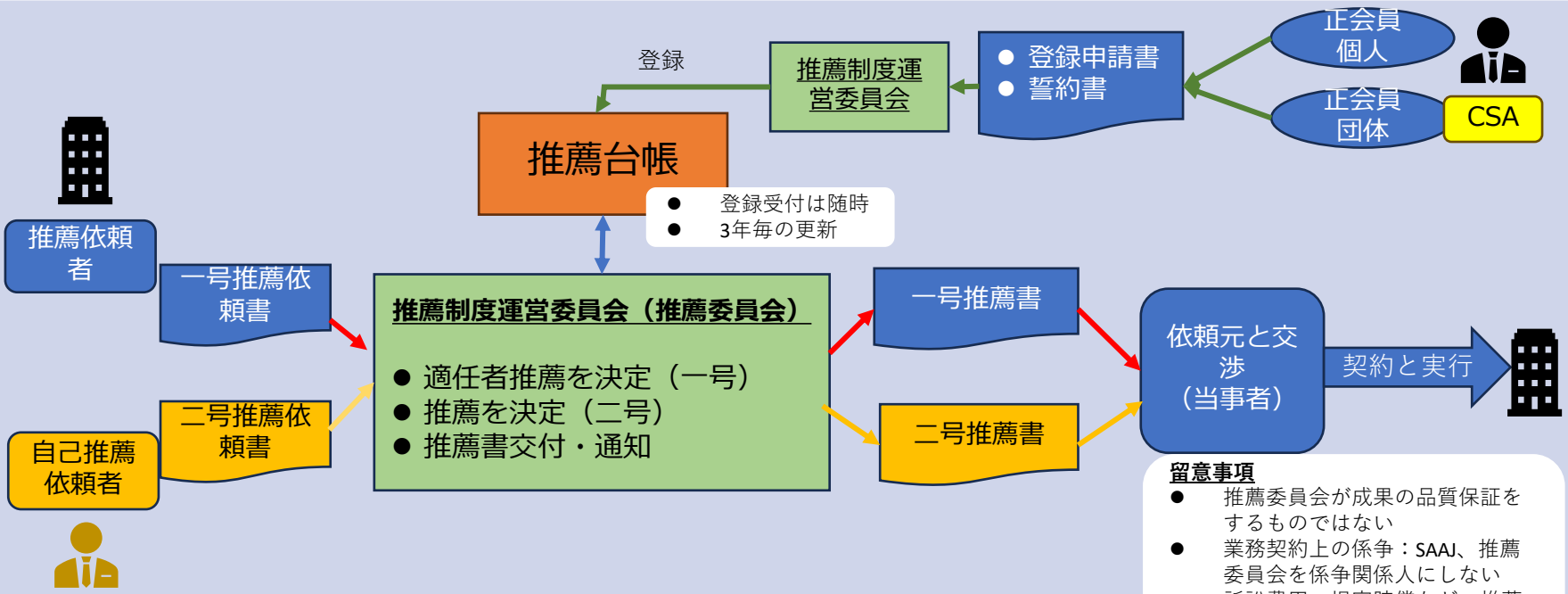
(2)推薦台帳の維持管理

推薦台帳

- 公認システム監査人（CSA）資格を有する個人又は個人が所属する団体を登録しておき、推薦依頼があった場合、台帳登録者から適切な推薦者を決定する。（正会員個人、正会員団体）
- CSA以外にも色々な資格保持者が登録されている（情報処理技術者A,B、公認情報セキュリティ監査人、技術士、中小企業診断士他）

12. 推薦委員会（委員長：松尾正行） (2/2)

推薦の流れ



お願い

- 推薦台帳にはシステム監査の経験豊富な個人、団体が全国ベースで登録されています。所属企業や関係先から相談を受けた場合、推薦制度の存在をアピールし、活用の可能性を検討してください。
- 最新の推薦台帳登録は2025年8月に行いましたが、追加登録の希望あればご相談ください。

- 推薦制度に関する疑問など気軽にご相談ください。 suisen@saaj.jp

お問い合わせ https://www.saaj.or.jp/toiawase/saaj_toiawase.html

13. 認定委員会（委員長：舘岡均）　(1/2)

「公認システム監査人」　認定制度

システム監査技術者試験合格者及びそれと同等の能力を有する者を当協会が審査し、公認システム監査人として登録を認める制度です。（特別認定制度）

2027年度以降も従来と同様に維持・継続し、新・情報処理技術者試験合格者を追加補充する。

「公認システム監査人(Certified Systems Auditor：CSA)」---実務経験２年以上

「システム監査人補(Associate Systems Auditor：ASA)」 ---実務経験２年未満

＜実務経験について＞

実務は「Aシステム監査」だけでなく、「Ｂ：業務監査・会計監査」「Ｃ：ＩＳＭＳ・ＩＳＯ９０００審査など」「Ｄ：部門内監査、自主点検、品質管理など」「Ｅ：ＩＴコンサル・ＩＴセキュリティ管理・ＩＴ管理など」「Ｆ：実務経験習得セミナーなど」「Ｇ：他団体教育講座」「Ｈ．学識・経験」がある。

＜「公認システム監査人」資格を保有することで期待できること＞

・社会での信用力向上と活躍の場の拡大、　・専門知識や技能の更なる向上

・人的ネットワークやビジネスチャンス　・キャリアアップ（社内、転職）　等々

CSAは経験を積んだ実力ある監査人として、様々な方面から信頼されている。

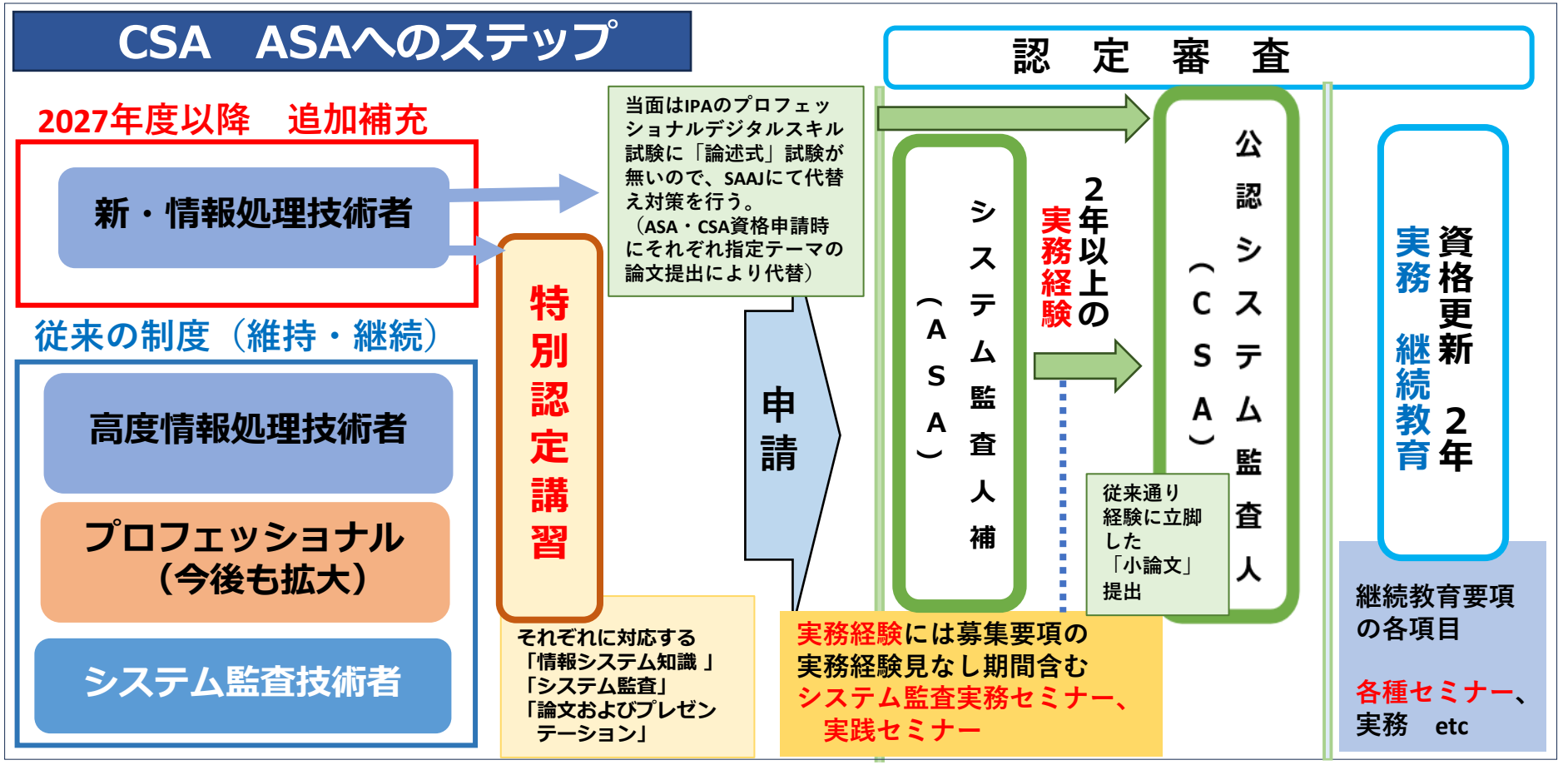
＜「公認システム監査人」の活躍の場＞

経営陣、監査役、内部監査部署（ITガバナンス、IT統制など）、情報システム部署、営業部署（システム提案／超上流工程）／開発部署、運用部署、プロジェクトシステム監査、プロジェクト評価、弁護士、公認会計士、技術士、中小企業診断士、情報セキュリティ監査、サイバーセキュリティ、BCP、ISMAP、CSIRT等の関連、審査機関、監査法人、教育機関、政府・地方自治体職員／CIO補佐官、各種評価委員、DX分野等。

◆クラウド、IoT、DX、AI等々のように、専門的な技術の高度化、利用範囲の広がりでシステムが複雑化。

⇒　俯瞰的な視点でのシステム監査活躍の場は広がっている

13. 認定委員会（委員長：舘岡均）　(2/2)



※2027年度以降　新・情報処理技術者
プロフェッショナルデジタルスキル（マネジメント）/（データ・AI）/（システム）、　情報処理安全確保支援士

※高度情報処理技術者
ＩＴストラテジスト、システムアーキテクト、プロジェクトマネージャ、ＩＴサービスマネジャ、エンベデッドシステムスペシャリスト、ネットワークスペシャリスト、データベーススペシャリスト、 情報セキュリティスペシャリスト、 情報処理安全確保支援士

※プロフェッショナル
公認会計士、米国公認会計士、中小企業診断士、技術士（情報工学部門、総合技術監理部門）、ITコーディネータ、CISA（公認情報システム監査人）、内部監査人（CIA,CCSA・・・）、 QMS/PMS/ISMS主任 エキスパート審査員、内部監査人（CIA,CCSA・・・）、公認情報セキュリティ監査人　、 PMP

14. 北海道支部 (1/2)

支部のプロフィール

① 設立：2002年1月
② 会員の状況：約10名
③ 支部管轄県：北海道
④ 支部の特徴：北海道内には179市町村が存在しますが、北海道支部の会員はほぼ札幌市に集中していますので、札幌市を中心に支部活動を実施しています。

支部の体制

●支部長：宮崎 雅年
●副支部長：小林 弘幸
●会計：宮崎 雅年（兼務）
●監事：大舘 広之
●セミナー担当：谷口 浩章

過去の主な活動実績

●支部長が内部監査部門でシステム監査を担当しているので、毎年１月の支部セミナーで支部長の実務経験に基づく研究発表があります。
・2026年：IT監査　～会社法と金融商品取引法の狭間で～
・2025年：電力業界としてシステム監査実施決定およびその後の状況について
・2024年：「情報セキュリティ白書2023」を読んで
・2023年：内閣サイバーセキュリティセンターの行動計画改訂に伴う重要インフラ事業者の対応について
・2022年：会社法に定める内部統制の評価の実務について
・2021年：コロナ禍における監査について
・2020年：2020 年 オリンピック・パラリンピックのサイバーセキュリティ

14. 北海道支部 (2/2)

今年度の活動目標、実績など

- 活動方針：システム監査に関する動向を知り、知識・能力等の向上に向けて月例研究会を開催するほか、広報等を通じて支部員増のほか、他支部および他団体との交流を図る。
- 活動実績：月例研究会は、本部より提供される本部月例セミナーの映像を上映して意見交換を行うほか、支部員が持ち回りで講師を務め、1月から11月まで毎月実施する。
  支部総会は12月に開催している。
- 広報：対外的な広報は、協会ホームページの北海道支部のコーナーのほか、北海道支部のFacebookページを充実させる。

支部活動の課題、今後の活動について

- 支部活動の課題：支部員について昨年3名の加入があり、減少傾向に歯止めがかかった。
  月例研究会について、至近で支部長以外に講師を務める方がいない。
- 今後の活動：支部合同研究会（2026年10月31日、仙台市で開催予定）を東北支部と共催し、支部員を派遣して運営、研究発表および他支部との交流を図る。

お問い合わせ合わせ　https://www.saaj.or.jp/toiawase/saaj_toiawase.html

連絡先 支部長　宮崎 雅年（masatoshi.miyazaki@ac.auone-net.jp）

15. 東北支部 （1/2)

支部のプロフィール

① 設立：2003年6月
② 会員の状況：14名
③ 支部管轄県：東北６県
（青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島）
④ 支部の特徴：
・２ケ月毎に月例会を開催
・月例会では情報交換と研究会を実施
・研究テーマは年度始めに決定

支部の体制

●支部長：横倉正教
●副支部長：佐藤雅英
●会計：櫻谷昭慶
●監事：西塚一哉
●研究広報：佐藤雅英（兼）、後藤武志、
佐々木訓
●顧問：鈴木実

過去の主な活動実績 （2020-2025)

●2025年、2024年：研究会：「新システム監査基準ガイドライン」について研究
＞成果物：小冊子「システム監査入門」作成、公表
●2024年、2023年：研究会：書籍「保証型システム監査」について研究
＞成果物：活動のまとめ「保証型システム監査について」作成、公表
●2020年：研究会：「協働ロボットの活用」について研究
＞成果物：「ロボットシステム導入ガイド(RIG)」
「ロボットシステム導入に向けたシステム監査のためのRFP見本」
「ロボットシステム導入チェックシート」 作成、公表
●2025年、2024年：支部合同研究会に参加
●2024年～2020年：３団体(SAAJ東北、ITCみやぎ、JISTA東北)合同ワークショップ開催

15. 東北支部 (2/2)

今年度の活動目標、実績など

- 研究会活動として、第300回月例セミナー「システム監査・管理基準テーマ別ガイドライン」の講演動画の視聴と討議を実施
- 支部合同研究会を10/31に仙台で開催予定（北海道支部と東北支部との合同事務局で準備中）

支部活動の課題、今後の活動について

- 会員数が都市部に比べ少ない。月例会への参加者も少数。
- 地域内の交通の便が悪く、集まりにくい。（オンライン機能は必須）

- 会員が興味を持てるような研究会テーマを挙げ、月例会への参加を促してゆきたい。
- 会員間の親睦を深め情報交換の場となるようなイベントを開催したい。

お問い合わせ合わせ　合わせ　https://www.saaj.or.jp/toiawase/saaj_toiawase.html

連絡先 ：saaj.tohoku@gmail.com

16. 北信越支部 (1/2)

支部のプロフィール

① 設立：2003年月
② 会員の状況：約20名
③ 支部管轄県：北信越地方5県
（長野、新潟、富山、石川、福井）
④ 支部の特徴：年間テーマを決め、年４回、各県持ち回りで例会を開催し勉強会を行っている。

支部の体制

●支部長
●副支部長
●会計
●監事
●県部会長（各県から1名選出）
●顧問

過去の主な活動実績

●例会の開催状況（第２土曜日の午後）
実会場とリモートのハイブリッド開催
・3月例会（富山）
・6月例会（福井）
・9月例会（長野または新潟で交互に開催）
・12月例会（石川）

16. 北信越支部 (2/2)

今年度の活動目標

支部会員の能力向上と支部の技術基盤向上を目指す。

（1）会員相互の研鑽によるシステム監査技術の向上
- システム監査・情報セキュリティ監査・システムリスク管理等、会員の担当業務の課題や研究活動に関する情報共有・意見交換により、課題解決への方向性等の気付きの場を設ける。

（2）本部、他支部、他団体との交流による知識、技術力の向上
- 研究会ビデオの貸出し運営（地域別上映）
- 他支部、他団体との研究会、交流等の企画推進

（3）プレゼンテーション能力の向上

（4）インターネットを活用した組織コミュニケーションの向上

（5） 会員増強／システム監査の普及・啓発
- 他団体との支部例会での交流等を通じ会員増強／システム監査の普及・啓発を推進

今年度の活動（実績を含む）

（1）支部総会、各県例会
- 3月支部総会・例会（富山：3/14）
- 6月例会（福井：6/13）
- 9月例会（新潟：9/12）
- 12月支部総会・例会（石川：12/12）

（2）支部合同研究会に参加
- SAAJ支部合同研究会：（仙台市、10/31）
- ３支部合同研究会：SAAJ中部支部、JISTA中部支部と交流（愛知県豊橋市、蒲郡市、6/20-21）

お問い合わせ合わせ .saaj.or.jp/toiawase/saaj_toiawase.html

北信越支部URL https://www.saaj.or.jp/shibu/hokushinetsu/hokushinetsu.html

17. 中部支部 (1/2)

支部のプロフィール

① 設立：1988年4月
② 会員の状況：36名
③ 支部管轄県：中部地方（岐阜、愛知、三重、静岡）
④ 支部の特徴：比較的人数が少なく、月例研究会および懇親会でも議論が盛り上がる。反面、支部活性化に尽力していただいた有力会員の退会や既存高年齢化に伴い、新入会員獲得が困難な状況に陥っている

支部の体制

- 支部長：浅野卓
- 副支部長：加藤智康
- 会計：加藤智康（兼務）、安井秀樹
- 監事：鈴木尚
- 顧問：栗山孝祐、田中勝弘
- WG1リーダー：栗山孝祐
- WG2リーダー：加藤智康

過去の主な活動実績

・定期的に月例研究会（基本は奇数月第3土曜日）を開催
（現地およびオンラインの双方で出席できるようにしている）
・メンバーの専門性や希望を考慮したWG1（ITガバナンス監査研修の試行）WG2（中小企業によるIoTシステム構築プロジェクト）の2つの活動の活性化に取り組んでいる。WG1では、実際の監査研修の実施に向けて、教材作成・研修の試行に注力している。WG2は浜名湖フォーラムにおける発表を踏まえた考察の高度化に取り組んでいる。

17. 中部支部 (2/2)

今年度の活動目標

活動計画
1. 中部支部内会員の継続的な相互研鑽・交流を図る。
2. 中部支部以外の地域や団体との情報交流を積極的に展開していく。
3. システム監査に関する知識やスキルの維持及び実践力や応用力の向上を目指す。

WGの概要
WG1 ITガバナンス監査研修の試行、実施（8/2 事前説明 8/22-23 オンライン）
WG2 中小企業によるIoTシステム構築プロジェクト 浜名湖フォーラムでの発表予定

今年度の活動（2026年10月3日現在実績を含む）

(1)支部総会
- 1月月例研究会（1/24 中小企業のDXよもやま話 ～DX認定とるぞ～）
- 3月月例研究会（3/28 東三河デジタル人材共創プロジェクトの取組み）
- 5月月例研究会（5/30 Windows10終了は危機か好機か 情報セキュリティ10大脅威2026と、Linuxと共にDX ）
- 7月月例研究会（7/25 "コミュニティ"は何を目指すべきか – 社会貢献とキャリア形成を両立させるコミュニティデザインの未来）
- 9月月例研究会（9/26 中小製造業で活用するためのシステム管理ガイドライン（IoT分野)に関する研究）
- 11月月例研究会（12/12）

(2)支部合同研究会に参加
- 3支部合同研究会：SAAJ中部支部、SAAJ北信越支部、JISTA中部支部（豊橋市、蒲郡市、6/20-21）
- SAAJ支部合同研究会：現時点で3名参加予定（宮城県仙台市）

お問い合わせ

支部長 浅野 卓 asanotakashi@systemkansa.org

18. 近畿支部 (1/2)

支部のプロフィール

① 設立：1988年3月
② 会員の状況：約91名
③ 支部管轄県：近畿地区（京都府、大阪府、滋賀県、兵庫県、奈良県、和歌山県）
④ 支部の特徴：
教育サービスグループ、ITサービスグループ、システム法制化推進プロジェクトという３つを中心に活動を行っています。これらの活動を支えるサポーター制度を設けています。

支部の体制

●支部長：近藤 博則
●副支部長：福本 洋一、大谷 英徳
●会計：福本 洋一
●監事：是松 徹
●支部担当役員：田淵 隆明、神尾 博、丸山 博儀、金子 力造、藪上 憲二
●参与：吉田 博一、荒牧 裕一
●支部サポーター：松井 秀雄、三橋 潤、川端 純一、中田 和男、吉谷 尚雄、阪口 博一、伊藤 聖子、岩崎 真明、小河 裕一、浜田 恒彰、石嶋 藤代

過去の主な活動実績

●1987年 近畿会設立
●1997年頃 近畿会メーリングリスト開設
●1998年 近畿会10周年記念シンポジウム開催
●2008年 近畿支部20周年記念シンポジウム開催
●2009年 近畿支部サイト開設
●2011年 近畿支部研究大会開催
●2012年 近畿支部メールマガジン創刊
●2013年 近畿支部25周年記念シンポジウム開催
●2018年 近畿支部30周年記念シンポジウム開催

18. 近畿支部 (2/2)

今年度の活動目標、実績など

- 教育サービスグループ
  - 定例研究会開催（1月,3月,5月,7月,9月,12月）
  - システム監査勉強会開催（2月,6月,10月）
- ITサービスグループ
  - Webサイトの更新など
  - メルマガ発行（季刊：1月,4月,7月,10月）
- システム監査法制化プロジェクト
  - システム監査法制化のロビー活動(ただし各個人の立場で)
  - 講演（5月、この後、ミニセミナーにも登壇！）

支部活動の課題、今後の活動について

◆ 支部の各サービスグループの活動にご関心のある方は、下の連絡先までご連絡ください。
近畿支部の方であれば、サポーターとしてご活躍いただけます！

◆ 新研究プロジェク活動の企画や、近畿支部40周年記念シンポジウムなど、皆さんの参加を待っているフィールドは、沢山あります！

支部連絡先など

支部サイト　https://saajk.org/
連絡先メールアドレス　contact@saajk.org

19. 中四国支部 （1/ 1 ）

支部のプロフィール

① 設立：1994年10月
② 会員の状況：11名
③ 支部管轄県：中四国9県
（鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知）
④ 支部の特徴：
・中四国で唯一のシステム監査人の団体
・支部活動の活性化、会員増員策を模索中

支部の体制

●支部長：鹿嶋俊男
●副支部長：田川誠、佐藤康之
●会計：本多美和子
●監事：田川誠

今年度の活動目標、実績など

●支部月例会の開催　2026年度はリモート開催 3 回、実地開催 1 回を目標にする
・本部月例セミナーの収録映像 視聴
・その他情報交換
●他支部との連携
・九州支部と連携した九州支部月例会への参加（希望者）

支部活動の課題、今後の活動について

◘ 会員が中国と四国に分散しており、集合が難しい。リモートでのコミュニケーション強化
◘ 月例会集合開催時に情報交換会の場を設け、会員の交流を促進する。年1回目標

お問い合わせ

https://www.saaj.or.jp/toiawase/saaj_toiawase.html

20. 九州支部 (1/1)

支部のプロフィール

① 設立：1989年12月
② 会員の状況：28名（個人27名、法人1名）
③ 支部管轄県：九州・沖縄各県
④ 支部の特徴：
システム監査に関係する各種情報を共有する勉強会を中心に活動しています。ISACA福岡支部、システム監査学会九州地区研究会と共催の月例会としてWebミーティングを開催しています。

支部の体制

●支部長：山本　慎一郎
●副支部長：舩津　宏／荒添　美穂
●会計：荒添　美穂
●監事：舩津　宏
●顧問：なし

過去の主な活動実績

●2020年5月以降、毎月オンライン月例会を開催

今年度の活動目標、実績など

●毎月オンライン月例会を開催、月例会内でのフリートーク時間の増加

支部活動の課題、今後の活動について

●フリートークを活発化させ、会員内での知見の交流を深める

お問い合わせ　https://www.saaj.or.jp/toiawase/saaj_toiawase.html